



西中学校だより 3月号

離見の見

羽生市立西中学校長 角屋 房男

世阿弥は、室町時代に能を大成した人物として有名です。それまで芸能に関する理論というものが存在しなかった中、世阿弥は、父である観阿弥から受け継いだ能の奥義を子どもや身内に伝えるために、約20の秘伝を書き遺しました。その秘伝には、世阿弥自身の体験をもとに、優れた能の理論が記されています。能は、能を舞う側の人、見る側の人との関係で成り立っています。ですから、秘伝には、観客との関係、人気との関係、自分自身の生き方との関係、すべてにおいて関係性が記されています。能への人気を保ち、人生の様々な場面で、自分と周りの人との関係の取り方が伝えられているのです。

その代表作に、「花伝」と「花鏡」があります。

「花鏡」に記されている「離見の見」という言葉があります。「花鏡」の中で、次のように伝えています。

『舞に、目前心後と云うことあり。「目を前に見て、心を後ろに置け」となり。(略)見所より見る所の風姿は、わが離見なり。しかれば、わが眼の見る所は我見なり。離見の見にはあらず。離見の見にて見る所は、すなはち見所同心の見なり。その時は、わが姿を見得するなり。』

「目を前に見る」ことによって、自分の目で前方、左右は見えます。しかし、鏡に映さない限り、後ろ姿は見えません。世阿弥の能の舞は、見るができない後ろ姿も見る事が不可欠であると伝えています。具体的には、「心を後ろに置け」と言っています。見所(観客席)から見る自分の姿を常に意識し、我見ではなく離見の見で見た時に初めて、「わが姿を見得するなり」といい、本当の自分の姿を見ることができると言っています。このことから、「離見の見」、「目前心後」という言葉は、能の舞を伝えるためだけでなく、人生の生き方を伝えるもののように感じます。

「離見の見」という言葉から、私たちは、常に客観的に自分を見ることが大事だと言うことです。一つ一つの言動は、「目前心後」のように、自分の目で見るものは、前方、左右の姿よりも、むしろ後ろ姿を大切にし、そして、見るというよりも心配りを大切にする事だと思います。さらに、自分の姿だけしか見えない「我見」ではなく、「離見」こそが、心の深さや広さにつながり、現代社会で最も必要な生き方だと思います。

西中生の活躍 2月の学校行事

10日(水)県理科教育研究発表会に科学部が参加し、最優秀賞を受賞しました。また、3日(水)には中学生議会に2年生の代表生徒が参加し積極的に活動しました。20日(土)には宮澤章二作品朗読会に、本校からも3名の生徒が参加し、素晴らしい朗読を発表しました。

羽生市中学生議会



新入生入学説明会



新入生部活動見学



けやき学級合同学習会



埼玉県理科発表会



宮澤章二作品朗読会



3月の行事予定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	火	期末試験 1.2年	17	木	
2	水	県公立高校学力検査	18	金	家庭読書の日(ふれあいデー)
3	木	県公立高校実技・面接 1.2年卒業式練習	19	土	
4	金	学年末 PTA1.2年 3年租税教室	20	日	
5	土		21	月	
6	日		22	火	
7	月		23	水	
8	火	3年生を送る会 1日公開日 3年給食終了 全校朝会	24	木	給食終了 大掃除⑤
9	水	卒業式予行	25	金	修了式
10	木	県公立高校入学許可候補者発表 学校評議員 学校関係者評価委員会	26	土	
11	金	PTA 交通指導日	27	日	
12	土		28	月	春休み ~ 4/7
13	日		29	火	
14	月	卒業式準備	30	水	
15	火	卒業証書授与式(部活動なし)	31	木	
16	水				